

【資料 2】

食見地区周辺海域調査

1 はじめに

福井県海浜自然センターが位置する食見海岸は、常神半島と黒崎半島に囲まれた世久見湾南部にある。湾内の4箇所30.2haの海域は、すぐれた海中景観を有することから、福井県では唯一の海域公園（三方海域公園）に指定されている。これらの海域において継続的な調査により藻場や生物相の現状把握に努めることは、当該海域の環境保全および普及啓発を推進する上で重要といえる。そこで、当センターでは平成11年度から当該海域において藻場や生物相の調査を継続的に実施している。

2 調査内容と結果

(1) 海水温測定

①調査地点および方法

センター地先船着き場内において、可能な限り毎日午前9時に表層から1m以浅で水温の測定を行った。

②結果

図1に平成21年度と平成22年度の測定値の各月の平均値を示した。4月11.1℃、5月14.0℃、6月20.1℃、7月24.4℃、8月26.8℃、9月26.8℃、10月22.6℃、11月17.4℃、12月14.5℃、1月10.5℃、2月9.6℃、3月9.6℃であった。

平成22年度の水温は平成21年度と比較して、4月から5月にかけて2.1～3.0℃低め、6月にはほぼ同様の値、7月から10月にかけて記録的な猛暑の影響を受け1.3～3.0℃高め、11月から12月はほぼ同様の値、1月には1.1℃低め、2月から3月はほぼ同様の値で推移した。

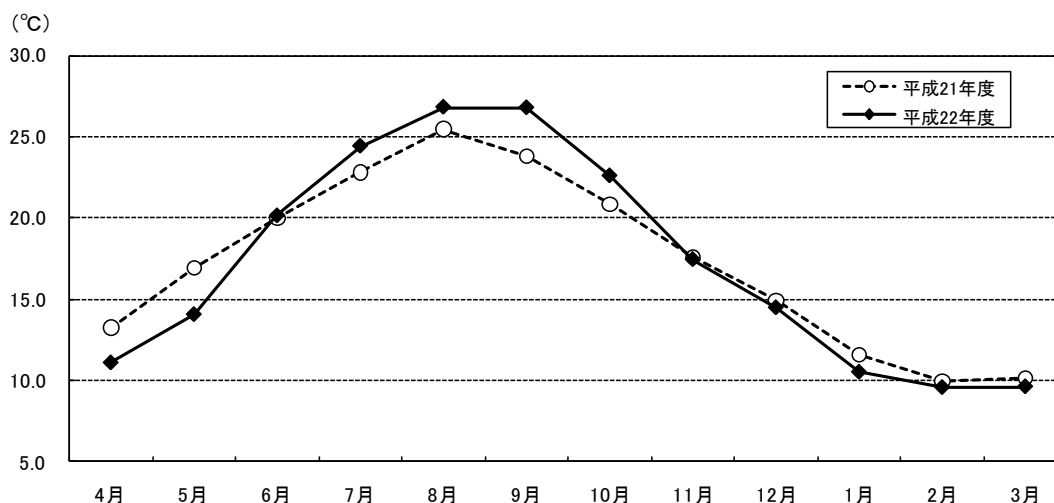


図1 センター前月別平均水温（平成22年度）

(2) 生物相調査

①調査地と方法

調査は、平成 22 年 10 月 14 日に世久見湾奥の海浜自然センター北側に隣接する遊歩道地先海域において実施した。

3m四方のコドラートを3箇所設置し(図2)、スノーケリングによる目視観察によって、コドラート内に出現した無脊椎動物(軟体動物、甲殻類、棘皮動物、環形動物、刺胞動物)、魚類について記録した。目視観察は、二人一組で1コドラートにつき20分間行い、表1の基準にしたがって記録した。いずれの分類群についても微小な個体や岩の下、割れ目の奥などに隠れているものは調査対象から除外した。

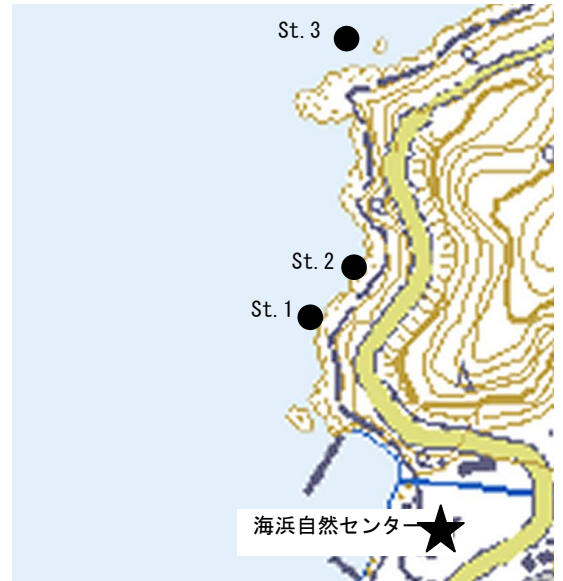


図2 生物相調査地点

表1 記録方法

分類群	記録方法	
無脊椎動物	軟体動物(貝類、イカ類、タコ類)、甲殻類(エビ類、カニ類)、棘皮動物(ヒトデ類・ウニ類・ナマコ類・ウミシダ類)、環形動物(ケヤリムシ類)	1~9個体: - 10~19個体: + 20個体以上: ++
	刺胞動物(イソギンチャク類・クラゲ類)	被度1%未満: - 被度1%以上: +
魚類	種類と個体数について記録する。 A:1個体 B:2~10個体 C:11~50個体 D:51個体以上	

②結果

調査地の水深は、St.1が0.8~2m、St.2が1.2m、St.3が2~3.5mであった。底質は、St.1では砂利の中に転石が点在していた。St.2およびSt.3では巨礫が主体であった。結果を表2~3に示した。無脊椎動物については、7目8科12種、魚類については、4目11科16種が確認された。

表2 定点調査地点結果(無脊椎動物)

綱	目	科	種名	St.1	St.2	St.3
軟甲	十脚	ホンヤドカリ	ケアシホンヤドカリ	-	-	
		ニシキウズ	オオコシダカガンガラ	-		+
腹足	古腹足		クボガイ	-	++	
		ヒメクボガイ	-	++		
	サザエ	サザエ	-		+	
		ウラウズガイ	-		++	
新腹足	アッキガイ	ヒメヨウラク			+	
		レイシガイ			-	
二枚貝	ウグイスガイ	ウグイスガイ	アコヤガイ			-
	カキ	イタボガキ	イワガキ			++
クモヒトデ	クモヒトデ	ニホンクモヒトデ	ニホンクモヒトデ		-	
ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ			+
5綱	7目	8科	12種	4種	4種	8種

表3 定点調査地点結果（魚類）

目	科	種名	St. 1	St. 2	St. 3
カサゴ	フサカサゴ	カサゴ		A	
スズキ	メジナ	メジナ	D		D
	スズメダイ	スズメダイ			C
	ベラ	オハグロベラ	A		
		キュウセン	A	A	B
		ホンベラ	C	C	C
		ホシササノハベラ		A	A
	ヘビギンポ	ヘビギンポ	A		A
	イソギンポ	ニジギンポ	A		A
	イシダイ	イシダイ	B		
アイゴ	アイゴ		C	A	
アジ	マアジ			D	
フグ	カワハギ	カワハギ	B	B	A
		アミメハギ	A		
		ウマヅラハギ	A		A
ナマズ	ゴンズイ	ゴンズイ			A
4目	11科	16種	10種	6種	12種

(3) ウミガメ調査

①目的

定置網で混獲されたウミガメ類を調査することにより、日本海におけるウミガメ類の回遊状況解明の一助とする。

②調査地と方法

沿海漁協へ調査表を配布し、ウミガメ類が混獲された場合に報告をうける体制を平成17年から整えている。混獲されたウミガメ類が、漁港まで運搬されている場合、現地に赴き、種名、大きさ（甲長、甲幅）などを記録した。

③結果

平成22年度には、アオウミガメ6頭、アカウミガメ1頭、オサガメ1頭の混獲報告があった。そのうちアオウミガメ2頭は、標識が装着された再捕個体であり、沖縄本島と鹿児島から放流された個体であった。

混獲、標識放流の記録は、標識放流調査の取りまとめ機関である日本ウミガメ協議会へ報告した。

表4 ウミガメ調査結果

発見日	種名	発見場所等		大きさ			処理	備考
				甲長	甲幅	体重		
2010年8月21日	アオウミガメ	宮島網（美浜町）	定置網	57.9cm	未測定	24.4kg	タグ装着後放流	前肢表：JPN57324、前肢裏：JPN57325 タグ表裏誤装着
2010年10月17日	アオウミガメ	神子大敷網（若狭町）	定置網	70.5cm	61.5cm	未測定	再放流	左前肢：JPN73917、右前肢：JPN73918
2010年10月19日	アオウミガメ	世久見大敷網（若狭町）	定置網	77.7cm	63.5cm	未測定	タグ装着後放流	左前肢：JPN57400、右前肢：JPN57399
2010年10月26日	アオウミガメ	日向大敷網（美浜町）	定置網	69.7cm	56.6cm	48.6kg	タグ装着後放流	左後肢：JPN57375、右後肢：JPN57376
2010年10月30日	アカウミガメ	大島定置網（おおい町）	定置網	66.0cm	55.4cm	未測定	再放流	左前肢：JPN64675、右前肢：JPN64674
2010年11月6日	アオウミガメ	神子大敷網（若狭町）	定置網	44.1cm	38.4cm	未測定	タグ装着後放流	左後肢：JPN57371、右後肢：JPN57372
2010年11月11日	オサガメ	米ノ定置網（越前町）	定置網	約120cm	未測定	未測定	放流	
2010年11月12日	アオウミガメ	世久見大敷網（若狭町）	定置網	44.6cm	38.8cm	13.0kg	タグ装着後放流	左前肢：JPN57363、右前肢：JPN57364 後肢両方欠けている